

児童が主体的に取り組む 学級活動の進め方

〔昭和61年2月作成〕

小平市教育委員会

教育長 坂井 康宣

児童が主体的に取り組む学級活動の進め方

目 次

I	研究主題及び研究主題設定の理由	-----	1
II	学級活動のとらえ方	-----	2
III	学級活動の現状と問題点	-----	3
IV	児童が主体的に取り組む学級活動の指導	-----	4
	1. 学級生活を向上させる話し合い活動の指導		
	(1) 話し合い活動の基盤づくり		
	(2) 話し合いを深める指導		
	① 話し合いそのものの質を高める	-----	5
	② 話し合いにふさわしい環境をつくる	-----	6
	③ 話し合いの準備と運営の計画を綿密に立てる	-----	7
	書式サンプル		
	学級会議議題提案カード	-----	9
	学級会実施計画	-----	10
	学級会記録	-----	11
	学級会個人カード	-----	12
	(3) 児童が主体的に取り組む話し合い活動の基本構想	-----	14
	(4) 話し合い活動指導系統表	-----	15
	2. 学級生活を支える係活動の指導	-----	16
	(1) 児童の自主的・自発的活動を促す指導の条件		
	(2) 活動の主体化を促す係活動の指導	-----	17
	3. 学級生活を充実させる集会活動の指導	-----	18
	(1) 集会活動の自標とその種類		
	(2) 児童の主体的活動を生かす集会活動の指導の手だて	-----	19
	① 主体的に取り組ませる指導		
	② 特別講習会の実施		
	③ 資料の準備と提供		
	(3) 集会を支える係活動の基本構想	-----	20
V	指導事例	-----	26

児童が主体的に取り組む 学級活動の進め方

I 研究主題及び研究主題設定の理由

一般的に、●●●立小学校教育研究会における特別活動部会は、定例会の参加者も数名であり、特別活動全般にわたり研究を深めるには支障が多く、部員も少ない。その理由や原因として考えられることは、以下の点である。

- * 情報を交換し、研究を深めても、〔特別活動主任＝児童活動＝代表委員会担当・集会委員会担当〕の位置付けが多く、研究したことを各自の学校でなかなか具体化できないことが多い。
- * 特別活動全体について組織的に運営できるように分掌組織を変えたいが、それもできない。
- * 担当者にまかせっぱなしで、なかなか協力がえられない。
- * 特別活動のことはよくわからないし、大変そうである。
- * 教科学習ほど大切なものでもないし、子どもに好きにやらせておけばよい。

今までにも部員から、〔各学校の特別活動の組織上の問題〕〔部員構成の問題〕〔特別活動に関する教師の認識の問題〕等が毎年のように出されてきたが、これらも特別活動に対する魅力を減らしている要因と考えられる。そこで昨年より、各学校の特別活動に関する情報交換をしながら、学級組任としての力量を高めるため、学級活動を中心に学年・学級に関わる問題を取りあげてきた。話し合いを進める中で、

- * 学級集会の現状は学級集団の組織的な運営とならず、遊び的な要素が多分に強い。教師の指導もあまりない。
- * 計画・運営〔話し合い活動～係活動～実施までの一連の活動〕を児童の自主的・実践的なものにし、児童が主体的に取り組むようにするためにはどのように指導したらよいか。

が話題となった。

学級の組織を生かした児童の自主的・実践的な学級活動に育てるには、児童の主体的な活動を図らねばならない。しかし現状は十分とは言えない。特に、『自主的・実践的な態度を育てる』指導法については、経験やマニュアルに頼ることが多く、研究が進んでいない。そこで本主題を設定し、指導法を研究することにした。

Ⅱ 学級活動のとらえ方

学級活動は、学級に所属する全児童が学級生活の向上・発展をめざし、教師の指導・助言を得ながら学級生活の諸問題を話し合い、解決を図るために一人一人が何らかの役割を受け持ち、自主的・実践的に運営し、学級生活を楽しく、豊かなものにしていく活動である。

学級活動のねらいは、学級に所属する児童全員が、学級生活の向上・発展という共通の目標を持ち、学級担任の指導する方向や活動範囲の中で、学級の成員と協力して共通の目標を達成するために、

- * 学級生活に関する話し合いと解決のための話し合い活動
- * 学級生活向上のための仕事を分担する係活動
- * 生活に変化とリズムを与え、学級生活の充実を図る集会活動

を自主的・実践的に行うことにより、学級集団の一員としての自覚を高め、自主性や社会性を養い、個性の伸長を図ることにある。

学級活動という集団活動を通して上記のねらいを達成するためには、個と集団の結び付きが大切となる。特別活動の自標に『望ましい集団活動を通して……………自主的・実践的な態度を育てる。』とあるように、学級集団そのものが望ましい集団でなければならない。そこで、望ましい集団としての条件を次のように考えてみた。

望ましい集団の条件

- * 全員が共通の目標を持っている
- * 集団の一員としての自覚と所属感を持っている
- * 一人一人が何らかの役割分担を持っている
- * 一人一人の意見が大切にされ、要求が充足されている
- * 成員間に相互作用があり、お互いが成長しあえる

このような集団にまで高めるには、教師と児童、児童相互の交流が日常的になされ、一人一人が集団の中で生かされるような教師の働きかけが必要である。

学級活動は、学級集団活動である。このような集団に支えられた学級活動を展開するためには、教師の集団指導に対する心構えとその指導技術が重要であり、同時に、話し合い活動～係分担活動～集会活動のそれぞれが一連の流れとして有機的に関連づけられ、児童一人一人により多くの自主的・実践的活動を持たせる場として、さらに、教科の学習や学校生活、その他から得た知識を生かし、使いこなす実践の場として構成されることが望まれる。

Ⅲ 学級活動の現状と問題点

学級活動は、児童の自主的・自発的な実践活動を通して学級集団の一員としての自覚を一層高め、健全な自主性や社会性を養い、個性の伸長を図ることをねらいとしている。そのためは、学級担任として次のようなことを常に意識しながら指導にあたらねばならないと考える。

- * 児童の成長、発達段階に即応し、連続的・発展的に学級集団の一員としての意識を高める。
- * 学級の諸問題を、自発的な実践活動を通して解決できるように、具体的に取り組ませる。
- * 目標が達成できるように指導・助言し、参加の喜びや成就感・充実感を持たせ、自信を得ることができるよう配慮する。
- * 学級生活の向上・発展のために、共に苦勞し実践する中で、集団意識や所属感を育み、集団活動における望ましい態度を育成する。

ところで現状を見ると、

- * 実施回数において20回から35回前後と大きな開きがある。]
- * 児童の自主的・実践的な活動だからあまり指導はせず、子どもたちにまかせている。
- * 指導はしたいが、その方法がよくわからないため、1年から6年までを見通した指導ができず、子どもの成長もあまり見られない。
- * 一部の子どもたちが学級委員として学級会を運営しているだけで、学級集団としての全体的な活動にまでは育っていない。
- * 係活動と当番活動が混在し、子どもたち自身もよくわからないまま係活動をやっている。
- * 組織的に計画・運営され、全員で取り組む学級活動になっていない。

等の傾向が見られる。

そのため、一部の児童の活発に見える活動から、うまくいっていると安易に見られがちであるが、集団に属する児童一人一人に目をむけたとき、そこには積極さや意欲に乏しく、従属的で充実感や満足感をもった生き生きとした活動とは程遠いものがある。

一人一人の子どもがどう生かされなければならないか、子どもはどんな願いをもち、何を求めているのかなど、児童の内面的なものにまで深く立ち入った指導によって、はじめて見

童の集団への所属感も深まり、充実した学級生活が実現するものと考え、

- * 学級生活を向上させる話し合い活動の指導
- * 学級生活を支える係活動の指導
- * 学級生活を充実させる学級集会の指導

のあり方を探り、児童が主体的に取り組む学級活動の進め方にせまることにした。

Ⅳ 児童が主体的に取り組む学級活動の指導

1. 学級生活を向上させる話し合い活動の指導

学級における話し合い活動は、一人一人の児童が、学級の成員であることを自覚し、学級生活の中で「自分の問題」を持ち、その問題を学級の話し合い活動を通して解決するための具体的・現実的な意義を明確に自覚してはじめて、充実したものとなる。そのためには、自分の所属する学級を何よりも安心できる場所として、あるいは、心を打ち明けられる友のいる場所として、そしてかけがえのない自分の生活の場所としてとらえさせることが大切である。

(1) 話し合い活動の基盤づくり

話し合い活動は全員参加が目標であるが、現実には、無関心な子ども、消極的な子ども、批判的な発言をする子どもがいることも事実である。しかし、全員が生き生きと参加し、具体的実践活動に結び付くような話し合い活動を自主的、実践的に運営、生活の向上をめざす話し合い活動へと発展することを願い、学級担任として次のことを常に意識しながら、意図的、計面的に指導することが主体化を図る条件となり、生活の向上をめざす、話し合い活動へ発展させる手だてとなる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">* 学級における自分の存在を見つめさせる* 学級の一員としての自覚と、所属意識を持たせる* 仲間と協力して学級生活の向上・発展を図ろうという意欲を持たせる |
|---|

そのためには、話し合い活動の基盤、すなわち一人一人が生かされる望ましい学級集団を育てることが大切なポイントとなる。

(2) 話し合いを深める指導

子どもたちの話し合い活動を深めるためには、次の三つの項目の指導が条件となる。

- ① 話し合いそのものの質を高める。
- ② 話し合いにふさわしい環境をつくる。
- ③ 話し合いの準備と運営の計画を綿密に立てる。

これらの項目は、話し合い活動を進めるにあたり、偶々に機能するものではなく、有機的に構成されたときに最も大きな効果があがるものである。

① 話し合いそのものの質を高める

子どもたちの話し合い活動を質的に高めるために、話し合いのもつ役割を次の三つに大きく分けてみた。

- ア. 共通理解・共通課題をもつための話し合い
- イ. 問題を分析し、解決策を探るための話し合い
- ウ. 実践活動へ向けての具体化の話し合い

ア. 共通理解・共通課題をもつための話し合い

話し合いの基本は、一人一人が自分の考えを自由に自己表現し、お互いの考えや悩みを聞きあうことから始まる。

そのような過程を通して、学級全員の共通の課題を見つけ、その課題を解決するための話し合い活動に全員で取り組む中から相互理解・相互啓発も生まれ、高められていく。

そのためには、普段から誰もが自分の考えを素直に表現できるあたたかい、思いやりのある学級づくりをしておくことが大切である。

イ. 問題を分析し、解決策を探るための話し合い

学級の共通の課題を解決するためには、それに関わる情報をできるだけ多く集め、共通理解を深めることが出発点になる。そして、一人一人がねらいやめあてを明確に持ち、解決への予測を立てながら話し合いを進めることが大切である。

そのためには、資料収集や原因の分析の方法を指導したり、問題解決のための援助をおこなうことにより、解決への見通しを持たせ、子どもたちの力で実現できる可能性を持たせること

が必要である。そうすることにより自主的、実践的意欲も継続し、主体的に取り組む態度も生まれると考える。

ウ. 実践活動へ向けての具体化の話合い

子どもたちが意欲的に話合いに取組み問題解決のための見通しを持ったとしても、解決案を決定するとなるとなかなかむつかしく、時間をオーバーすることもたびたびある。ときには、せっかく進めてきた話合いが空回りすることもある。そこで、子どもたちの話合いを実践に結び付けるには、具体案決定のための原案が必要である。そのためには、〔イ〕による事前活動（情報収集・問題分析・解決の見通し）が重要となる。次回の議長団に準備活動を繰り返し取らせることにより、意志決定のための基礎づくりを十分にやっておくことが話合いを助け、解決策を具体化する手だてとなる、実際の話合い活動では、ア～イ～ウが、全員参加のもとに有機的に機能し、学級集団の話合いの深まりの結果として意志決定されることになる。

② 話合いにふさわしい環境をつくる

話合いを進めるにあたり、教室そのものが話合いをするのに都合よく構成されていることが大切である。

学級会コーナーを設置し、議長団の役割や議題を紹介することにより全員に学級会を受けとめさせ、学級会に臨む準備を意識させることにもなる。さらに、議長団のメンバーにも自覚が生まれ、事前準備に熱心に取り組む等のよい効果をあげることができる。

また、議題によって座席の配置を工夫することにより、能率的、効率的に話合いを進めることもできる。

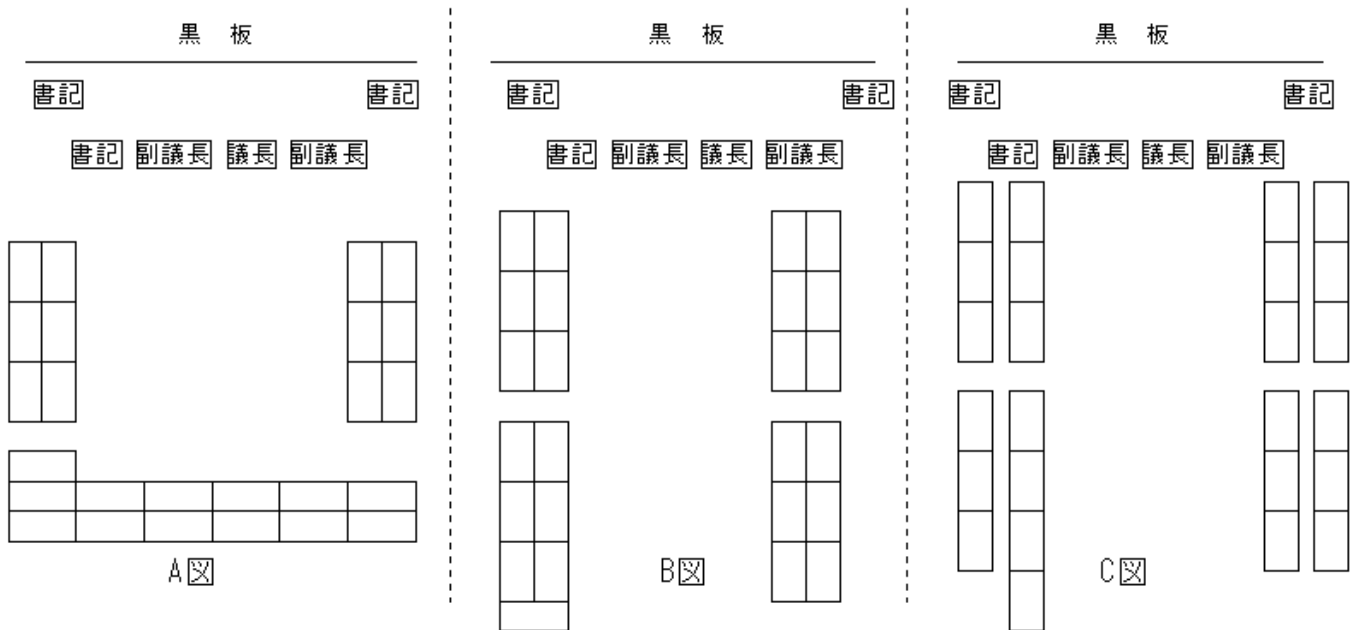
議長団の 役割表	今週の議題	学校の 教育目標	
	学級会 までの 手順	学級の目標	児童会だより
返 事	議題箱	年間行事計画 △議長 1名 △副議長 2名 △書記 2名	* 班日記 * 掃除反省ノート * 日直日誌
	提案用紙		

(学級会コーナー)

普通全員で話し合う時には、A図の口の字型に机を配置し、黒板側に議長団の席を設けるが、係活動の計画や実践・反省等を話し合う時には、B図のように係ごとの配置の方が便利である。また、自由な雰囲気の中で話合いを進めたい時には、机も椅子もどかし、床にまるく座ってやるとリラックスして多くの意見が出やすいものとなる。

時に、学級を二分するような話合いになった時には、C図のように向いあった座席配置をし、お互いに議論を戦わせながら話合いを進めると、各々の立場がよくわかり、効果をあげることができる。

要は、議題によって最も話合いのしやすい座席配置を工夫することが大切なことである。



③ 話し合いの準備と運営の計画を綿密に立てる

話し合いを成功させるには、子どもたちの手で事前の準備を立てさせることが大事である。そのためには、学級会を開くまでの議長団の仕事、その他の児童の役割をはっきりとしておき、児童が主体的に活動できる手だてを整えておくことが大切である。そして、一人一人を生かす指導が時と場に依じていつでもできるように指導法の研究を心掛け、児童と一緒に学級活動を作っていくことも、児童の自主性を育てる上で必要なことである。

そこで、学級会を開くまでの手順と指導の手だてを次のように考えた。

ア. 次回の議長団を確認し、役割分担をする

学級会の司会は、学級委員〔学級会係や計画係〕として固定されている場合が多いが、子どもたちの力を育む上からも全員に経験させた方がよい。低学年からこのような方針で指導すれば、高学年になった時に自分たちで取組み、主体的に運営できるようになるだろう。

1つの例としては、班ごとに順番で議長団を経験させ、班の中でも順番で議長・副議長・書記を経験させることにより、話し合いを進める上で議長団とその他の児童のはたすべき役割が全員にわかるようになり、学級活動の運営に大きなプラスとなる。

イ. 議題の収集・整理をする

議題を集める方法としては、議題ポストを教室内に設置し、みんなで話し合って決めたいことを募集するのが一般的な方法である。提案がないときには、議長団で話し合い、議題を決めることもあるが、できるだけ提案されたものから選ぶことが望ましい。

ところで、提案者の考えを大事にすることは、これから先も学級の問題を進んで見つけ、

自分たちで解決しようとする態度を養うことになる。そのためには、提案者一人一人に提案の処理をどのようにしたか返事を出すようにしておくことも大切なことである。

ところで、集められた提案は次のような観点で整理し、処理できるように指導しておくこと、児童が主体的に取りくむようになり、計画的に仕事を進めることができるようになる。

提案処理の観点

- * 学級会の議題としてふさわしいもの
- * 係や当番に直接伝えた方がよいもの
- * 帰りの会で本人から話してもらった方がよいもの
- * 先生にお願いした方がよいもの
- * その他のもの

ここで、どのような議題が学級会の議題として望ましいのかを全児童に徹底しておくことは、提案する側に立った時にもそのことを考えて提案することができるようになるので、議長団が変わるたびに繰り返し指導することがよいだろう。そこで、望ましい議題の条件を次のように押さえた。

望ましい議題の条件

- * 現在、学級で困った状況にあり、すぐに解決した方がよいもの
- * 学級生活の向上・発展に結び付くと考えられるもの
- * 解決策の見通しが立てられ、自分たちの力で実現できる可能性のあるもの

ウ. 議題を決める

議題を決めるには、〔全員で話し合っで決める〕〔議長団で決める〕等の方法がある。しかし、自主的参加の意欲を引き起こし、全員に共通の自標を持たせ、その解決のため取り組むようにするためには、議題を自分たちの問題として受けとめさせることがキーポイントとなる。そのためにも全員で話し合っで決める方がよい。誰からも提案がなかった時だけ議長団で決めるようにした方がよいだろう。

エ. 実施計画を作る（原案の作成）

学級会の実施計画を立てるに当たっては、話し合いを能率的にし、充実した活動とするためにも原案作成が議長団の仕事として重要になる。しかし、議題の種類によっては係や提案者（個人や班）に中心になって作成してもらい、提案する方法もある。

また、項目だけを準備しておき、内容はみんなで話し合っで決めたり、新たな係分担を通して決めの方が良い場合もある。いずれにしても児童が自主的・実践的に取り組み、主体性を

持って活動できる最良の方法を指導・助言してやることが大切となる。

次に、話合いの順序を決めることが必要である。このことは、学級指導の時間を使って能率的・効果的な話合い活動の進め方を指導しておくことが大切である。特に、全員に議長団の役割を経験させる方針で学級活動を計画する時には、この指導は欠かせないものとなる。

このような指導を通して議長や副議長にも協力できるようになり、リーダーとフォロアーの役割を自覚し、意識した活動ができるようになってくる。

ところで、原案と話合いの順序が決まったら、学級会ノートを作成し全員に配って、一人一人が疑問や自分の考えを持って学級会に参加できるように指導を重ね、話合いを通して問題解決のために、全員が力を合わせて取り組むように意識づけることが大切である。このことが話合い活動を活発にする指導の手だてとなり、決まったことに対しても問題意識を持ち、解決のための実践活動に主体的に取り組む児童の育成につながると考える。

学 級 会 議 題 提 案 カ ー ド

年 組学級会

提案者	提案日 月 日()
議 題 (話しあってほしいこと)	
提案理由	

さんへ

あ な た の 提 案 は

() 学級会の議題として、 月 日()の学級会で話し合います。
() 学級会の議題とするかどうか、みんなに計ります。 〔 月 日()の朝の会か帰りの会に提案します。〕
() 係りや当番にお願いしました。〔 〕
() 朝の会か帰りの会に、自分で提案してください。
() 先生にお願いしました。〔 〕
() その他 〔 〕

月 日() 議長団(班)

第 回 学 級 会 実 施 計 画

年 組学級会

議 長 団 検 討 会	日 時	月 日() : ~ :
	出 席 者	
学 級 会 予 定 日 時		月 日() 第 校 時

議 題

提 案 者 と 提 案 理 由

[]

議 長 団 の 役 割 分 担

議 長		副 議 長	•
書 記		副 書 記	•

話 し 合 い の 順 序

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
準 備	

第 回 学 級 会 記 録

月 日 ()

決 定 し た こ と	
先 生 の 話	
反 省	

第 回 学級会個人カード

月 日() 議長団 班

議長		副議長	
書記		副書記	
議題			提案者
話し合いの順序		質問や意見	
MEMO			

名前

今日の話し合いでできたこと

今日の話し合いの反省

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 質問や意見を考えてきましたか。 | ○ ○ ○ |
| 2. 自分の意見を はっきり言えましたか。 | ○ ○ ○ |
| 3. 話し合いをまとめるように 発言できましたか。 | ○ ○ ○ |
| 4. 友達の意見を 相手の立場になって考え 聞くことができましたか。 | ○ ○ ○ |
| 5. 学級全員にとって 一番良い結論になったと思いますか。 | ○ ○ ○ |
| 6. これから 何をしたらよいかわかりますか。 | ○ ○ ○ |

感想

(3) 児童が主体的に取り組む話し合い活動の基本構想



(4) 話し合い活動指導系統表

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
ねらい	教師の助けをかりて、学級内の問題を知り、初歩的な話し合いができる。	教師の助言を得て、友だちとのやり取りの中から問題をみつけ、解決のためにみんなで話し合いをすることができる。	教師の助言をもとに、学級生活の中から問題をみつけ、解決のために、やや形の整った話し合いができる。	話し合いの組織をつくり、学級をより楽しくするような問題をみつけ、実践も考えて話し合うことができる。	組織的な活動を通して学級の問題に気づき、学級全体のことを考えながら話し合いを進めることができる。	常に学級全体を意識する中から、解決すべき問題を整理し、実践に結びつく建設的な話し合いを、能率的に進めることができる。
議題選定	*個人 *班 *係 *代表委員会・各委員会					
の選手順	*教師を中心に当番の児童との話し合い	*教師の助言を得て、当番の児童を中心にして	*教師の助言をもとに議長団の児童ができるだけ自分たちの力で	*議長団の児童が中心になり教師の助言を得ながら選ぶ	*議長団の児童が自分たちの力でえらぶ *教師は必要に応じて助言する	*議長団の児童が自分たちの力で出来るように児童の自主性にまかせ教師は必要に応じて助言
実施	*教師	*教師と児童	*教師の指導で児童	*児童中心 教師は助言	*児童	*児童
計画	*教師	*児童と教師	*児童と教師	*児童	*児童	*児童
の計画	*教師を中心に	*教師を中心に 児童の考えを聞きながら	*児童と教師	*児童を中心に 教師は助言	*児童	*児童
成提	*教師の助けを得て簡単に	*教師の助けを得て	*児童 *教師は補足	*児童 *教師は補足	*児童	*児童
話し合い	*教師の助けを得て 児童が指名 内容を知らせる 決まったことを確認する	*教師の助けを得て 児童が指名 内容を知らせる 決まったことを確認する	*教師と相談しながら児童が司会	*話し合いの順番を考えて 児童が司会	*公平な立場で司会	*能率的に司会
話し合い	*手をあげ指名されたら発言 *わからないところを聞く *話し合いに参加する	*話し合いのルールを知る *自分の考えを発表する *友達の考えをしっかりと聞く *進んで話し合う	*ルールを守り進んで話し合う *理由を付けて発言する *質問と意見を分けて聞く	*ルールを守って話し合う *要点をまとめて、はっきり質問したり意見を言う	*会議を進める方向で発言する *考えをまとめて発言する *相手の立場を理解して質問する *自分の考えと比べながら聞くことが出来る	*進んで意見を出し、クラスのみならずにとって一番良い方向へ能率的に話し合う
動	*教師が板書する *係がノートに写す	*教師と児童で板書する *係がノートに写す	*教師の助言を得て児童が板書 *ノートにとる (教師の助言を得て)	*要点を押さえて板書する (教師の助言を得て) *形式の整った学級会ノートに記録する	*話し合いの内容を記録する	*話し合いの内容を項目ごとに、能率よく記録する

2. 学級生活を支える係活動の指導

学級における係活動は、自主的に学級内の仕事を分担し、生活を豊かなものにしていくためにさまざまな問題进行处理し、解決していく中で、自主性や社会性を身につけ、自分の個性や能力を伸ばしていく活動である。しかし、現実においては、「係活動はつまらない。」「〇〇さんは自分勝手ですぐ遊びに行ってしまう。」「〇〇さんはいつも早く帰ってしまう」「みんなが協力してくれない。」等の声を聞くことが多い。そこで、児童が自主的・実践的に取組み、主体的に活動するようになるための係活動の指導について考えてみた。

(1) 児童の自主的・自発的活動を図る指導の条件

児童の自主的な係活動がみられず、活動内容も決まったものであり、マンネリ化している。また、学級活動としての組織的な活動に育っていない等、現状は児童の創意や工夫が生かされないままになっていることが多い。その原因として考えられることをあげ、その対策と児童の自主的な参加意欲を高め、実践的活動を図る指導の条件を次のように考えた。

- ★ 集団そのものに問題がある……・係集団指導を通し、構成員の連帯意識を高める。
- ★ 活動内容に魅力がない……………・創意工夫の余地を広げ、児童の考えを生かしてやる。
 - ・学級全体に目を向けさせ、みんなの生活に役立つ活動を展開させることにより、組織的な活動に育てる。
 - ・話し合い活動を通して、各係の問題点や改善点を出し合い、それらの意見を活動に生かしていく。
- ★ 各係が何をしているのか……………・係からのお知らせや活動内容を知らせる係コーナーははっきりわからない
 - を設け、広報活動を通してお互いの活動内容を知らせることにより活性化を図り、生活に役立てる。

自主的・実践的活動を図る指導の条件

- * 係活動への興味や関心を育てる。
- * 学級会の組織的活動を活用し、活動そのものの活性化を図る。
- * 創意工夫の余地を広げ、できるだけ生かすことにより活動内容を豊かにする。
- * 個性や能力を十分生かすことができ、自己実現ができるように配慮する。
- * 目標を明確にし、一人一人に目当てを持たせ、最後までやり抜く意志を育てる。
- * 具体的実践段階においては、実現可能な活動を助言し、援助することにより成就感や充実感を経験させる。

(2) 活動の主体化を図る係活動の指導

係活動は、学級生活を豊かに、そして楽しいものとするために、生活の中に起こるさまざまな問題を解決するために仕事を分担し、処理するための活動である。活動の主体はあくまで児童にあり、活動の内容も、自分たちの生活の向上、発展のためのものでなければならない。しかし、現実には、担任の学級管理上の補助的活動を係活動と称して児童にやらせているものもある。このために、活動内容に創意工夫が加えられず、児童の主体的活動とならないため、係活動が育たない原因ともなっている。

学級会における係活動は、児童が自分たちの学級生活を豊かにする活動内容のある係を作ることから始めなければならない。当番活動や教師の補助的活動は係活動と区別して行うように低学年のときから指導すべきである。

係を作る 係を作るときには、今までの学級での生活を反省させ、よりよい生活が出来るようにするために自分たちでできる仕事を考えさせることから始めたい。そして大体の活動内容・必要な人数・男女の構成等をみんなで話し合い、共通理解を図ったうえで希望により所属を決めるのが望ましい。

所属をきめる どの係に所属するかは、子どもにとって大変大きな問題であり、時には人間関係のあつれきにまで発展することもある。このようなことから、望ましい集団の育成に日頃から取り組み、成員相互の親和感を育てておくことが大切になるのである。

所属の決定にあたっては、あくまで本人の希望が生かされなければならないが、友人関係から仲のよい友だちに追従したり、男女のバランスがとれなかったり、特定の係に集中したりすることもある。そのためにも所属の仕方を十分に話し合い、児童自身の手で決められるようにしておくことが必要である。

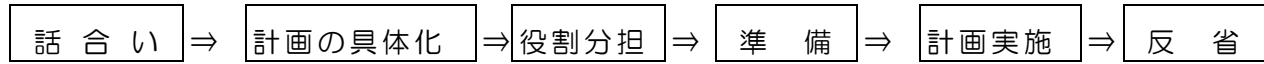
係の交代 ところで、自分の希望する係に所属できた児童が意欲的に活動したとしても、話し合いの結果、他の係に移った児童は、興味がわかなかったり、活動に意欲が感じられなくなることもある。また、長い期間同じ係にいと活動がマンネリ化してきたり、創意工夫に支障のでてくることもある。交代は、学級の実態や児童の取組みの様子によっても変わるが、できれば各学期ごとに行うほうが新鮮な気持ちで取り組めるし、希望した係に行けなかった児童は、次は行けるように決めておくことと意欲を引き起こすことにもなる。

係の新設 児童の活動が活発になると、係の新設も話し合いの話題になることがある。そのような時には、学期にこだわらず、話し合いのもとに児童が自分たちの手で決めるように指導したい。係活動に積極的に取り組ませるには、児童が全員の話し合いで決めることが大切であり、活動の内容が直接自分たちの生活にむすびつく具体的なものであればあるほど意欲的に取り組むこともできる。

3. 学級生活を充実させる集会活動の指導

(1) 集会活動の目標とその種類

学級の集会活動は、生活に変化を与え、楽しく、豊かな学級生活を築くことをめざした活動である。計画を立て、役割を分担し、協力して仕事をするることにより、連帯感も生まれてくる。ところで、学級活動のねらっている自発的・自主的活動に育てるためには、



という総合的な活動として取り組ませ、児童の手によって運営させなければならない。

そのためには、ただまかせておくだけではなく、育てるための指導《名称、目的、内容、参加対象、日時、会場、予算、役割分担、プログラムと進行、準備と運営》をしなければならない。そこで、集会活動を通してめざす目標と集会の種類を次のように押さえた。

目 標

* 楽しく、豊かな学級生活を実現する。

* 組織的活動を通して自己実現を図る。

* 自主性・自発性を高め、実践力を身につける。

• 集会を実施するために仕事を分担し、共通の目標を持って活動することにより連帯感や所属意識も生まれる。

• 学級集団としてさまざまな活動をしていく中で、実践力や最後までやりとげる意志を育て、個性や能力を育むことができる。

• 自主的に取り組んでこそ意欲も生まれ、創意工夫も発揮される。そして、成就感や満足感も得られ、新たな活動への意欲も育つ。

集会の種類

集会活動として考えられるものは、大きく次のように分けることができる。

- * 文化的集会
- * 体育的集会
- * 勤労・生産的集会
- * レクリエーション的集会
- * その他の集会

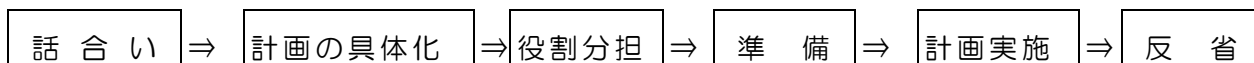
- 発表会（音楽、劇、紙芝居等）
- スポーツ集会
- お楽しみ会（誕生会、クリスマス会等）
- 歓送迎会（転出入生の会等）
- 会食（作って食べよう会等）
- 作品展（教科学習の発表等）
- 学習会（全員で必要な講習を受ける）

集会の内容としては、多種他様のものがあり、何をやるかは児童の話合い活動を通して決めさせるとよい。しかし、児童にまかせたままにしておくと、スポーツ会的な集会、お楽しみ会的な集会にかたよってしまう傾向があるので、年間を見通して何回ぐらいできるか、どのような集会を実施するか計画を立てさせるのがよい。

(2) 児童の主体的活動を生かす集会活動の指導の手だて

① 主体的に取り組ませる指導

児童が自主的に集会活動に取り組み、しかも、自分たちの手で実践するようにするには、



までの過程において何をするのかを、全員によくわからせ、自信を持って自分の仕事ができるように指導することが大切である。子どもにまかせ、自分たちでできる程度の内容しかない集会をやっていたのでは、子どもの力は伸びない。そこで、主体的に取り組ませる指導内容を次のように押さえた。

主体的に取り組ませる指導内容

- * 発達段階を考慮し、学年・能力に応じた計画を立てさせる。
- * 共通の目標を持って取り組ませる。
- * 子どもの要求を取りあげてやり、創意工夫させる。
- * 計画は綿密に立てさせ、準備には十分力をいれさせる。
- * 全員の子どもに役割があるように配慮し、その子の能力を引出す。
- * 自主的活動の余地を広げてやり、互いに協力して取り組ませる。
- * 目標が達成できるように、具体化の段階で指導し、実践段階では援助する。

② 特別講習会の実施

児童の自主的活動を育て、主体化を図るには、自分たちでできるようになるための力を身に付けてやらねばならない。そのためには、集会の内容を豊かにしたり、成功させるための運営の方法を指導しなければならない。そのための講習会を聞くことも必要だろう。

講師は、担任であることもあるし、同学年あるいは、他の先生であってもよい。時には、外部からその道のポロを招いて指導を受けたり、児童がやることもあるだろう。

このような活動を通して、子どもたちの経験も深まり、力もついてくる。

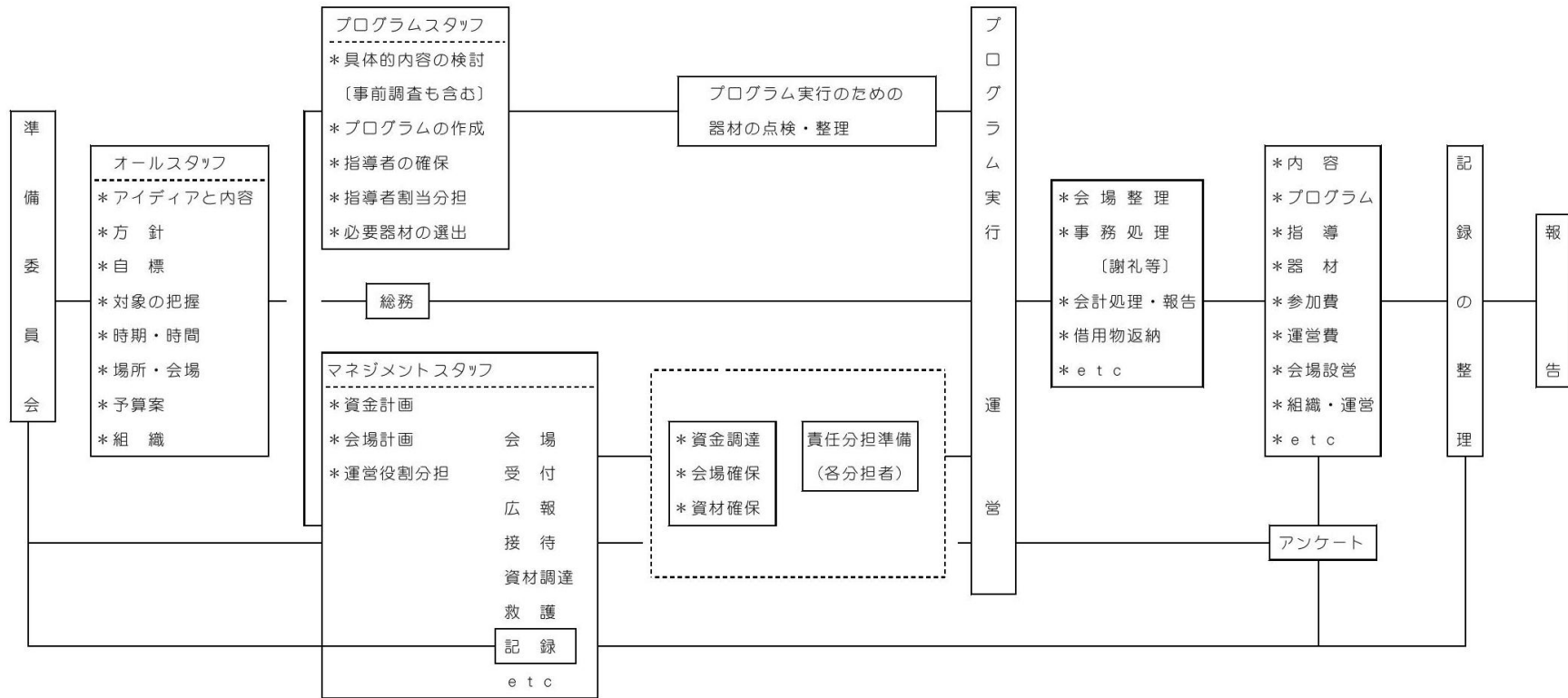
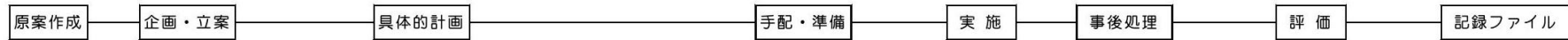
③ 資料の準備と提供

児童は集会活動が大変好きである。しかし、その内容はかたよりがちである。その理由は《他にどんなことをやったらよいのかわからない。》《やりたくても方法がわからない。》《どのように協力してやったらよいのかわからない。》ことにある。

そのためにも講習会を聞き、全員にわかるようにマニュアルブックや資料を提供することを考えていく必要があるだろう。

今年度は、野外活動の手引き書、飯盒炊爨に役立つように野外料理の手引き書、スポーツ大会の手引き書、クリスマス会の手引き書を作り、児童の力を引き伸ばす実践を試みた。

④集会を支える係活動の基本構想



☆ 行事名 ☆ 《 》 企画 [. / ()] 実施日 [/ ()] 場所 []

担当者	
プログラム	
時間	
運営	
担当者	
運営上の注意	

V 指導事例

学級活動指導案

昭和59年12月3日(月) 第5校時

昭島市立つつじが丘北小学校 5年1組

男子13名 女子18名 計31名

指導者 坂井康宣

お楽しみ会をやるう

1. 議題 [お楽しみ会をやるう]

- ・なにをやるか
- ・いつ、どこでやるか
- ・内容はどうするか
- ・どんな方法でやるか
- ・その他

2. 学級の実態

本校開校時からクラス解体もなく三年目に入った児童集団であり、五年生になるまでに男子三名、女子四名の転入児童がいた。

五年生になり、担任が代わり 新たに男子一名、女子一名転入、二学期に入り女子一名転入の移動があり、現在に至っている。

本学級の児童は大部分が恵まれた環境にあり、素直で明るい性格の子が多い。

しかし、自己中心的な子が多く、他を思いやり、話し合って問題解決を図ろうとしたり、助けあって仕事をしたりするなどの協力鈎な態度や実践的な活動がみられなかったり、友人関係においては 特に男子一名、女子二名が嫌われっ子の立場にある等の傾向がみられた。

そこで、過去二年間に作られた友達観を突きくすすため、何となく友だちを嫌っていたことや、その子にも良いところがあること等をわからせると共に、班活動、係活動において『協力すること』を第一として取りくませてきた。二学期には、班活動を一層活発にするため、班学習で『助け合うこと』、掃除点検ノートを作ることにより自分の分担に『責任をもつこと』、『協力すること』をめあてに取り組んでいる。学習面では、女子二名に遅れが目立ち、特にそのうちの一名は差が広がりつつあり、家庭に協力を求め、学習に取り組ませている。

3. 議題設定の理由と本時までの経過

(1) 今までの経過と設定の理由

児童数の少ない、しかも、母体校のない新設校として開校したので、初年度より児童の活動する場を出来るだけ多く取り入れ、新しい校風を自分たちが作っていくのだという自主的参加の意欲を持たせ、目標や活動内容、係活動に積極的に取りくませることにより児童の活動の主体化を図ってきた。

五年生になり、自分たちの学校生活を反省する中から一学期の学級会のテーマとして《男女仲よく明るく楽しいクラスをつくろう》をかかげ、学級生活全般の中で頑張ってきた。(一学期の学級会の議題参照)二学期になり、組織的な活動に興味を持ちはじめた児童は、係活動にも創意工夫をこらし、係の名称は、ありきたりのものではいやだと主張して一学期に決めたものにもさらに知恵をしぼり、仕事の内容にも創意工夫をこらすようになってきた、代表委員会からおろされてくる提案にも積極的に取り組み、自分たちの力で学級会を運営出来るようになってきた。

自分たちの生活が満足いくものになるにつれ、男女の仲もよくなり、一緒に遊ぶ姿も見られるようになってきている。

そのような経過のなかから、一、二学期を通してお楽しみ会をやっていないことみ気づき、是非やりたいという三名の女子の提案が議題箱に入れられ、今回の議題として提案され、全員の賛成を得て決定された。

(2) 今回の経過

いわゆるお楽しみ会は、今回まで一度もやっていないため、四年生までにやってきた、劇をやったり、音楽の発表をするようなお楽しみ会を考えていたようである。

そこで、そろそろ高学年を意識した組織的な活動を経験させ、集会の計画の立て方から、運営の仕方までを指導することをねらい、時期的なことも考慮に入れながら、〔何をやるか〕〔いつごろやるか〕〔どんな内容にするか〕を考えてくることとし、班ごとに意見をまとめて提案することにさせた。

子どもたちが、中休みや昼休みの時間に班ごとに集まり、意見が発表できるように準備を進めている中に入っては、子どもたちの考えを刺戟し、今まで学習したものをできるだけ盛り込むように助言してきた。

4. 本時のねらい

- * みんなで楽しめるお楽しみ会を考え、具体化する。
 - ・自分の考えをはっきり述べる。
 - ・友だちの意見をよく聞き、みんなにとって一番よいものにまとめる。

5. 本時の展開

* 役割	議長団	二班
		議長 久松 秀
		副議長 政住 恭子 ・ 亀岡 めぐみ
		書記 富原 理江
		副書記 安藤 美樹 ・ 山口 悟朗

*展覧

児 童 の 活 動	話 し 合 い の 流 れ	留 意 事 項
‘開会を宣言する。 副議長 ・ 役割を紹介する。 副議長 ・ 議題を確かめる。 議長 ・ 話し合いの方向を確かめる。 ・ 議長の司会で話し合いを進める。 ・ 班で考えた全校共同作品を発表し、学級の提案としてまとめる。 ・ 今日決ったことを発表する。 書記 ・ これからの活動を確認する。 副議長 ・ 次回の議長団を知らせる。 議長 ・ 閉会を宣言する。 副議長	1. 開会 2. 議長団の紹介 3. 議題の確かめ 4. 提案理由 5. 質問や意見 6. 話し合い * 意見発表 ・ なにを ・ いつ、どこで ・ 内容は ・ どんな方法で 7. きまったことの確かめ 8. これからの活動 9. 先生のお話 10. 次回の議長団 11. 閉会	・ 問題を解決し、まとめあげる方向で助言する。 ・ 話し合われたことを中心に良かったことを認め、今後の方向を出す。 ・ 準備を進めるよう指示する。

6. 評価

自分の考えをはっきりと発言できたか。

他のよい提案を取り入れて、みんなで楽しめる会をつくりあげようとしていたか。

具体的な実践段階において、積極的に活動できるか。

7. 座席表

黒 板	副 書 記						
	副 書 記	書 記	副 議 長	議 長	副 議 長		
		副 議 長	議 長	副 議 長			
		副 議 長	議 長	副 議 長			
		副 議 長	議 長	副 議 長			
		副 議 長	議 長	副 議 長			
		副 議 長	議 長	副 議 長			

8. これまでの学級会の議題と活動内容

① 代表委員を決めよう

係を決めよう ・どんな係が必要か考えよう

② 自分のやりたい係は何だろう ・係決め

- ### ③ 係の仕事をしよう
- ・班長決め
 - ・係の名前決め
 - ・仕事を考える

④ 学級会のやり方を考えよう

- ・議長団は班ごとに交代しよう
- ・全員が全部の役を経験するように順番に交代していこう
- ・学級会ノートや提案用紙を作ろう
- ・学級会を開くまでの準備を考えよう

(帰りの会で継続して話しあう)

(代表委員会から) ・縦割班で遊ぶゲームを考えよう

⑤ 給食を早く食べるにはどうしたら良いだろう

- ・給食当番の仕事を考えよう
- ・配膳の方法を考えよう
- ・待つ人はどうしたら良いだろう
- ・当番活動を考え直そう

(帰りの会で継続して話しあう)

⑥ 縦割班の遊びについて考え直そう

⑦ 校庭開きスポーツ大会の種目を考えよう (代表委員会から)

- ・縦割班でやる種目を考えよう

⑧ みんなの広場でスポーツをしよう

⑨ 係の掲示板を作ろう。

- ・各係専用の掲示板を作り、掲示物を工夫する。

⑩ 校庭開きスポーツ大会のテーマを考えよう。

⑪ 校庭開きスポーツ大会のテーマを書こう。

⑫ 運動会のめあてを考えよう。

- ・全校のめあて。
- ・学年のめあて。

全校種目を考えよう。

⑬ 係を決めなおそう。

- ・係の所属を決めなおす。
- ・係長を決める。
- ・活動計画を立てる。
- ・係の掲示板の工夫をする。

⑭ みんなで考え、席を決めよう。（班づくり）

⑮ 係活動をしよう。

- ・係のめあて、活動内容を紹介する。

⑯ 班の旗を考えよう。

⑰ 旗作りをしよう。

⑱ 展覧会の全校共同作品を考えよう。

⑲ 紙芝居を作ろう。（多色刷り版画）

- ・お母さんの木と木竜うるしに分かれ、場面を分けて分担する。

⑳ 開校記念祭で作るものを考えよう。

- ・学級の縦割班で考える。

- 紙芝居作りをしよう。
 - ・ 班毎に下絵を検討する。
 - ・ 版を彫って、印刷する。

- 学年の共同作品を考えよう。
 - ・ 何を作るか。
 - ・ どのようにして作るか。

- 展覧会の仕事の分担をしよう。

- 展覧会の反省をしよう。
 - ・ 自分の作品はよかったか。
 - ・ 学年の共同作品はよかったか。
 - ・ 全校の共同作品はよかったか。
 - ・ 係の仕事はしっかりできたか。
 - ・ 次回に向けて

- 代表委員会への提案を考えよう。

- 係の活動を反省しよう。

- お楽しみ会をやろう。（5年生とのお別れ会）
 - ・ 何をやるか。
 - ・ いつ、どこでやるか。
 - ・ 内容はどうするか。
 - ・ どんな方法でやるか。
 - ・ その他。

9. 学級会までの手順

月	学級会 次回の議長団の確認 今後の活動の確認
火	
水	議題の収集
木	議題の整理 (議長団) 議題の提案と議題決め (議長団)
金	学級会実施計画の相談 (議長団) 学級会ノートの印刷
土	学級会ノートの配布

実践事項は、具体案作成後実践に移る

10. 学級会（話し合い）の進め方

①	開会の言葉	-----	副議長
②	議長団の紹介	-----	副議長
③	議題の確認	-----	議長
④	提案理由	-----	提案者
⑤	質疑応答	-----	議長
⑥	討論	-----	議長・副議長
⑦	決定事項の確認	-----	書記
⑧	今後の活動	-----	副議長
⑨	先生のお話	-----	議長
⑩	次回の議長団の確認	-----	議長
⑪	閉会の言葉	-----	副議長